

うつほの杜学園 アクセシビリティと特別支援ポリシー

(Accessibility and Special Support Policy)

1. 包摂性の理念 (Philosophy)

うつほの杜学園小学校(以下、本校)は、「関係力」「探究力」「創造力」を育む探究型グローバル教育を実践するウェルビーイング・コミュニティ・スクールであり、すべての児童がその個性と可能性を最大限に発揮できる学びの場を提供する。私たちは、すべての児童が学習に完全に参加・成長・成功する権利を持つと信じている。この理念は、包摂的教育の原則と一致しており、学習・指導・評価における障壁を取り除き、すべての児童が公平に学べる環境を整える。

2. 包摂性の定義 (Definition)

包摂性とは、児童の多様な背景・能力・ニーズを尊重し、教育活動への完全な参加を可能にすることを意味する。これにはさまざまな要因が含まれる。本校では、包摂性を「すべての児童が学習に完全に参加し、成長し、成功することを目指す継続的なプロセス」と定義する。

3. 包摂性の実践 (Practices)

うつほの杜学園では、以下の方法で包摂性を実践する:

- 協働的な学習環境の構築: 教職員・保護者・地域社会が連携し、児童の学習と成長を支援する協働的な環境を整える。
- 文化的多様性の尊重: 多様な文化的背景を持つ児童が自分のアイデンティティを大切にしながら学べるよう、文化的に相互親和性をもつ教材と活動を取り入れる。
- ユニバーサルデザインによる教育 (UDL): すべての児童がアクセスしやすい教材と指導法を採用し、多様な学習スタイルに対応する。
- 選択理論を活用した包摂的な関係性の構築: 選択理論を活用し、人それぞれ求める欲求の種類と強さが異なることを理解し、多様性を認め合う素地を育成する。
- 個別支援の提供: 必要に応じて、個別の学習計画 (IEP) や支援を提供し、児童のニーズに応じた支援を行う。

4. 役割と責任 (Roles and Responsibilities)

- 教職員: すべての児童の特性と学習ニーズを理解し、適切な支援を提供する責任を持つ。
- 保護者: 児童の学習と成長を支援し、学校との連携を図る。
- 児童: 自らの学習に積極的に参加し、他者を尊重する態度を育む。
- 学校全体: 包摂的な文化を醸成し、継続的な改善を図る。

5. ポリシーの見直し(Policy Review)

本ポリシーは、年に一度、教職員・保護者・児童の代表による委員会で見直しを行い、必要に応じて改訂するものとする。また、最新の研究動向を参考にし、包摂的な教育を継続的に向上させる。

制定 2025年8月20日